



楷樹 (山崎記念館前)

The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

肥後医育ニューズレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人肥後医育振興会
〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号
TEL・FAX (096) 373-5425
ホームページ <http://www.119higo.com/>

発行人 理事長 西 勝英 編集人 木原 信市
印刷所 ㈱城野印刷所 TEL (096) 286-3366(代)

理事長挨拶



公益財団
法人 肥後

理事長 西 勝英

医育振興会は平成28年度を迎え創立20周年の節目を迎えるに至りました。財団発足以来今日まで様々な公益事業並びに学術支援事業を展開出来ましたことは、皆様方の多大なご援助とご支援によるものと衷心より感謝いたします。

今から20年前、熊本大学医学部は創立100周年を迎え、それまで地域医療並びに医療・医学に多くの貢献を果たしてきました。これを期に熊本大学医学部のみならずの発展を願い、同窓生並びに関係諸団体からの寄進を仰ぎ、地域医療並びに医学・医療への支援、並びに市民への正しい医療情報の発信を目的に本財団が発足したのであります。本来、医学振興のためには多大の資金と時間、及び人材

の養成が必要とされます。先進諸国においては多くの場合、大学の発展には付属の振興支援財団が資金の面で多くの貢献を果たしています。しかし、本財団がはたしてどれだけ貢献しえたかと、振り返って見た時、十分な役目を果たしてきたとは言えない現状であります。今後どのような形態で財団を運営し、当初の目的に向かい進展すべき努力を重ねて行きたいと思っております。皆様方のご支援、ご鞭撻をお願いする次第です。

本年もまた、ノーベル医学・生理学賞を東京工業大学栄誉教授大隅先生が受賞されました。永年の地道な基礎研究が報われたものと、同じ基礎医学・生物学を志した者として喜びに堪えません。しかし、大隅先生が言われる通り、「基礎医学研究は研究費の減少と研究者の減少と

相まって今後20年後には医学・生理学ノーベル賞に値する研究は出ないであろう」と思われま

す。

昨今の研究現場の雰囲気として「役に立つ」研究のみに陽があたり、基礎的研究はないがしろにされている傾向が見られます。特に国立大学に対する文科省の運営交付金(研究費、施設費、人件費)は平成16年度1兆2465億円のところ、毎年縮小し、平成26年度は1303億円も減少し、1兆2415億円となつています。このように厳しい状況の中で、純粋な基礎科学研究は極めて困難な状況に陥つていると言わざるをえません。将に、我が国の科学技術の振興の危機に瀕していると思われ

ます。

立生理学研究所」で多くの優秀研究者達から、自己の研究に啓発を受けてきました。本来大学は真理の追究、研究の場であり、決して功利的、利益追求の場であつてはならないと思ひます。

そのためには、恒久的な観点から十分な財政的補助が必要とされます。本来、国家並びに大学の外郭団体である財団こそがその任務を果たすべきであると思われ



熊本大学医学部の発展のために公益財団法人 肥後医育振興会は、その責務を果たすためにも重ねて皆様方の多大なるご支援をお願いする次第です。